令和６年２月２７日

飯南町教育委員会
教育長　大　谷　哲　也　様

飯南町教育環境基本方針検討委員会

委員長　作　野　広　和

答　　申　　書

令和４年６月２７日付飯教第２０２号で諮問された下記の件について、別紙のとおり答申いたします。

記

諮問事項

1. 飯南町教育の現状と課題の分析に関すること

2. 今後の少子化や人口減少などに対応できる飯南町にふさわしい教育環境の検討に関すること

検討委員

別紙のとおり

検討にあたって

飯南町には４つの小学校，２つの中学校，１つの高等学校があり，学校教育の環境は整っています。また，町内５つの公民館を中心に社会教育が盛んに行われるとともに，家庭や地域においては子どもたちが健やかに育っています。この他，島根県中山間地域研究センターには農林大学校があり，飯南町は中山間地域にありなが

ら，豊富な地域資源に恵まれ，子どもたちの育ちや学びに適した環境にあるといえます。

一方で，長年にわたる過疎化や少子化により，子どもの数は徐々に減少していき，今後もその傾向は続くと思われます。また，高齢化に伴い，地域の活力も緩やかながら低下していくと思われます。しかし，飯南町の教育環境を劣化させるわけにはいきません。なぜなら，飯南町がいかに縮小したとしても，そこに人が住み，子どもが育ち続けるからです。私たちに課せられた使命は，これからの飯南町に求められる教育はどのようなものか，それを実現させるために必要な教育環境はどのようなものなのかについて検討することでした。

私たちは，令和４年６月から１年半以上にわたって情報を収集し，真摯な話し合いを続けてきました。その結果，初等教育段階においては「地域の子どもは地域で育てる」ことが適切であると考えました。そのためには，小規模であっても小学校はできるだけ身近な地域に立地すべきです。そして，住民が学校教育に関わることで，大人も学べる環境を継続したいと思います。また，中等教育段階においては，子ども同士が切磋琢磨するとともに，飯南町内全体をキャンパスと見立て，多様な人や資源と関わるべきだと考えました。そのためには，中学校と高等学校の接続を考慮し，両校が物理的に近い場所に立地すべきであると考えました。この他，学校，家庭，地域が連携し，特色ある教育活動が継続するための多くの要素について検討を重ねました。

教育環境の整備とは，学校の配置について検討することにとどまりません。しかし，学校は地域のよりどころでもあるため，その配置については多様な意見や考え方が存在しています。検討委員会においても，答申に対する共通理解は図られていますが，さらなる提案も示されており，残された課題も多いと思います。その代表的なものとして，「子どもたちの声をもっと反映すべきだ」との意見があります。このことについては大きな宿題であると考えますので，今後何らかの形で必ず実現したいと思います。

私たちの検討は，本答申をもって一旦区切りをつけますが，町民の皆さんが飯南町の良さに向き合い，よりよい飯南町を作っていくための「地域づくり」に終わりはありません。本答申をもとに，飯南町内の各地区において，子どもも大人も参画した多くの議論が交わされることを願っております。